

4
月号

学校だより



令和7年4月8日発行
東京都立中野特別支援学校+
しいの木分教室

校長 和田 慎也

<https://nakano-sh.metro.ed.jp/>

令和7年度 さくら校舎としいの木分教室、新しい中野特別支援学校の幕開けです！

令和7年度が始まりました。7日（月）に始業式、しいの木分教室の入学式、本日は高等部入学式、明日は小学部と中学部の入学式があります。今年度は、小学部1年生41名、中学部1年生23名、高等部1年生62名（うち、しいの木分教室1名）の新入生を迎え、全体では406名（うち、しいの木分教室9名）となりました。令和6年度からは55名増、7学級増になっております。改めまして、お子様の御進級、御入学おめでとうございます。

表題にありますように、さくら校舎としいの木分教室での教育活動が始まります。目線を右上に向けてください。学校名の表記ですが「東京都立中野特別支援学校+しいの木分教室」としました。「+」は「プラス」と読んでください。私は、閉校した歴史のある「東京都立しいの木特別支援学校」に敬意を表すること、本校と分教室を「合わせる」ということで別々ではないこと（距離は離れていても同じ中野の子供と教職員）、また「プラス」という言葉は、新しいことに挑戦する・始まるなど、前向きで明るいイメージがあることから、本校と分教室の一体感を高めるため学校名をこのような表記としました。

右のしいの木特別支援学校の校章はしいの木分教室のシンボルマークとして、校歌は「式歌」としてしいの木分教室で受け継いでいきます。また、しいの木分教室の活動の様子なども、今後学校だよりで紹介していきたいと考えています。



さて、さくら校舎ですが3月の修了式以降、教職員総出で引っ越し作業を行いました。ほとんどの教職員は学校の引っ越しを経験していません。私も初めてでした。旧校舎の47年間分の思い出とともに、倉庫からは本校の前身である「東京都立青鳥養護学校杉並分校」時代の写真、旧校舎の竣工記念行事の写真、校歌制定委員会の議事録など、歴史あるものがいろいろ出てきました。子供たちに見てもらう機会も設けようと思います。でも、さくら校舎は倉庫の収容量も少ないものですから、かなりの分量のものを廃棄しています。旧校舎の体育館がいっぱいになったほどです。その体育館には校歌が掲示されていましたね。これはさくら校舎に持って行く予定でしたので降ろしてみると、なんと昭和63年度の高等部の卒業制作だったのです。額の左側に刻印があったのですが、体育館の上部に掲示されていたので気が付きませんでした。さらに額の裏側には、制作にかかわった卒業生名簿も貼ってあり、驚くとともに改めて本校の歴史と、巣立っていった子供たちの学校に対する想いを感じたところです。この校歌は、さくら校舎の正面玄関に掲示しています。ぜひ、近くでじっくり御鑑賞ください。

さくら校舎は4月に入っても細かい工事が続いておりましたが、懸案であった屋上のフェンスも整備され、安心して教育活動ができるようになりました。何もなかった教室に机やイス、ロッカーを入れ、子供たちを受け入れる準備も整ったところです。さりとて、新しい環境ですし子供も教職員もとまどうことはあると思いますが、一つひとつ確認しながら、安全第一で教育活動をはじめてまいります。スクールバスの運行ルートや、放課後等デイサービス車両の入庫の方法も変わります。東中野地域の方々と関係機関のみなさまとも、十分に連携を取りながら学校運営を行ってまいります。令和7年度の中野特別支援学校+しいの木分教室、どうぞよろしく願いいたします。

